
家族至上主義者の言い分

Acu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家族至上主義者の言い分

【Nコード】

N2594BA

【作者名】

Acu

【あらすじ】

始まりは一匹のイレギュラーだった。神を喰らい、同胞を喰らい…獣は決意する。己が身は、家族のために。己が力は、家族のために。神などいない。魔物とヒトの蔓延る世界で、獣は何を為すのだろうか。

Prologue

いつのことだったろうか。
遠い、遙か昔のことだったと思う。

我らは生まれた。否、創られたと言つべきだろう。
おそらくヒトが、神と呼ぶ存在共によつて。
与えられた役目は「掃除屋」。

ひたすらに指示されたモノを喰つていく仕事であり、常に満たされぬ飢えに苛まれる我らには天職と言える。

しかしながら、何事にもイレギュラーはつきもの。

「私」が在った。

「私」がイレギュラーだった。

途方もない数の同胞の内、何故私だけだったのかは解らない。

本来知恵も理性もあるはずのない我らの内、何故私だけに理性が生まれ知恵を持てるようになったのか。

だがこれは考えても仕方のないことだ。答えなど在りはしない。

ただの犬畜生、たかが獣風情だった私。私が群れの長となった時だった。

その獣に牙を剥かれた神共は残念だったと言うより他にない。

我らに正確な存在すがたを与えず、不安定な、我らの想像力のみで構成される肉体。つまりは壊されようとも思うがままに復元可能な体だ。
圧倒的物量と死を知らず、痛みを知らぬ体。

我らは勝った。神共は全員我らの血となり肉となり、我らは自由を手にした。

だがしかし、私もまた犬畜生だったのだ。浅慮過ぎた。我らはそれまで指示されたモノを喰っていれば良かった。けれども指示がなくなり喰うモノが判らず…そうなれば後は必然的に共食い、同族食いだ。不死の我らに終わりはないと思われた。…私が、飢えにのたうちまわるようになるまでは。

……肉が喰えぬならば、存在を…そこに生を受けたと言う証を喰らえば良い。後に残ったのは私だけ。あれほどいた同胞も、すべて私の腹の中。

痛かった。とにかく痛かった。

何が?…あ、…ああ…あ、…ああアアアああアアアああアアアああああ悲しいああアアア悲しいとは何だアアあああ哀しい辛いアアア哀しいとは辛いとは何だああアアアああアアアあああ酷いアア酷いとは何だああアアアあ苦しなあアアあいやあの仔らのほうがもっと苦しかった!……!……!……!

もう二度と、

「瀬都、またお昼寝?」

「……………ん……………」

「夢?」

「…ん。…ねえ、おかあさん」

「なあに?」

「ぼく、ちゃんとかぞくをまもるよ」

「あらま、男の子の成長は早いわねえ……。期待してるわ、瀬都」
「がんばる」

もう二の舞は踏まない。
すべては、同胞かそくのために。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2594ba/>

家族至上主義者の言い分

2012年1月6日21時48分発行